

## 北釜のブランドメロン「北釜クイーン」の復活

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた名取市下増田の北釜地区で、5月6日に5年ぶりに北釜ブランドメロン「北釜クイーン」の定植作業が行われた。

作業を行ったのは、被災農家7戸で立ち上げた「(株)名取北釜ファーム/鈴木更治社長(77)」だ。



北釜地区は震災前に109世帯あったが、被害で離農した人も多く、営農を再開した農家はまだ少ない。

このような中、鈴木社長は地区の農業再生のために、平成26年12月に法人を設立し、各種の補助金を活用しながら農機具等を準備して、被災した約8.3ヘクタールの農地にビニールハウス144棟を再建して野菜の栽培を再開した。

主な栽培野菜はチンゲン菜、小松菜、雪菜、山東菜等を、5キロの詰め合わせ箱にして月に約200箱を、仙台市場を中心に出荷している。

鈴木社長は、「震災から5年経過して、やっとメロンの定植までたどり着いた。北釜クイーンの復活が地域農業再生の象徴だと考えており、収穫の夏を心待ちにしている」と笑顔で話していた。

